

オーダーメイド感覚を実現する カスタマイズ機能の奥深さ。

千葉 利之氏〔情報開発部長〕

明治神宮の収益部門として昭和22年に発足した「明治記念館」(東京都港区)は、日本で最初の総合結婚式場。大小27の宴会場を待ち、1年間に行なわれる婚礼組数は2500件、一般宴会集会も3000件にのぼる。同施設では従来、オフコンによる業務管理システムを導入していたが、昨年末に営業系の基幹システムを(株)ユニコーンの「BV Manager」に切り替えるプロジェクトを成し遂げた。

インターネットによるネットワーク環境の急速な進歩や、パソコンによるシステムの充実から、企業が基幹システムをオフコンからパソコンベースに移行する動きが目立っている。

明治記念館でも、長らく活躍してきたオフコンのリース契約が切れるのを機に、総務・経理系を除く営業系のシステムをパソコンベースに移行することにした。システムのオーダー開発も念頭に入れてプロジェクトチームを立ち上げたのは、いまから1年半前だった。

「いろいろ検討を重ねたんですが、チームも仕事の片手間でしか時間がとれず、結局、オーダーメイドのシステム開発は断念することになったんです。それまでのオフコンによる旧システムから発想していたのではチがあかなかった。そんなとき、チームのスタッフが展示会に展示されていたBV Managerに興味を覚えて、私に報告してきたんです」

もとは電機大手の営業出身で、同館で情報システム開発の指揮をとってきた千葉利之情報開発部長は、当初の様子をそう振り返る。

「宗教法人の収益部門である当館は、ほかの一般企業とは会計基準も異なる。それに業務のボリュームも一般のホテルよりも大きい。だから、既存のパッケージ製品で対応できるものかどうか疑問はありましたよ。

でも、ユニコーンさんと検討を重ねるうちに、カスタマイズを



千葉利之情報開発部長

重ねれば十分に対応できることが分かった。加えて、システム操作のレスポンスを速めるためのカスタマイズまで可能だった。

それに何より、パッケージ製品からの開発だから、オーダーに比べて圧倒的にコストを低くできる。もう、これでいこうと思いましたがね」

そうして導入されたBV Managerは、予約管理から、調理などの各現場への発注伝票の出力まで、トータルに自動化してくれる高度なシステム。データはすべて汎用ソフトのエクセルに落とすことができ、現場ごとに容易に加工・分析が可能なので、業績予想がリアルタイムでできる。原価・人件費管理の徹底が求められる現代にあっては心強い味方だ。

千葉部長はさらに「システムの内容もさることながら、ユニコーン側のメンテナンス態勢も信頼に足りるものだった」と言う。バグが発生しやすい導入当初はユニコーン社のスタッフが常駐し、なおかつオンラインで24時間監視するシステムの構築にも尽力している。

そして明治記念館では現在、BV Managerを活用した“第2次システム開発”に着手し、今年秋には稼働予定だ。その目的の中心は、内部で持つ「生花部門」の業務効率化。

婚礼組数・一般宴会集会を合わせて年間5500件をさばく同館では、催事における生花の売上高は年間5億円にもものぼり、東京・大田市場でセリに加わる売参権も有するほどである。命の短い生花をどれだけ効率的に仕入れて、どれだけ効率的な運用のサイクルを構築できるか、それが利益を大きく左右する。これまではベテラン社員の勘に頼っていた業務だが、



豊かな緑に囲まれた由緒ある明治記念館

それもBV Managerにリンクさせて自動化しようという目論見なのだ。

※

この数年で、大手ホテルをはじめ明治記念館のような専門宴会施設でも急速に導入が進んでいるBV Manager。さて、その機能と特性をここで改めてチェックしてみよう。

①式場・宴会場の予約状況を年間カレンダー、月、日、曜日、六輝星ごとにビジュアル表示、②予約スケジュールをチャートで表示、③仮予約・予約・取り消しなどのデータの即時更新(リアルタイムでの情報共有)、④顧客データの多様な検索機能と打ち合わせ進捗状況、変更履歴の管理、⑤法人宴会の履歴管理と成約前フォローの支援機能、⑥精算、仕分け業務など会計処理の効率化、⑦売上分析など各種営業データの分析機能…。

このほかにもアプリケーション機能は数多くあり、既述のようにカスタマイズも柔軟にできる。つまり施設固有の業務状況に応じたシステム構築と運用が可能で、パッケージを超えたオーダーメイド感覚の使い勝手を実現できるのだ。宴会システムに特化し、現場ニーズを研究し尽くしたユニコーン社製品ならではの特色。

それは大手システム企業にも追随を許さないものとなっている。



婚礼宴会の業務効率化で強力な武器となるBV Manager